# 横堤中だより

平成２７年３月６日
大阪市立横堤中学校
３月号　No.34

## ３年生最終章　卒業式 そして 公立高等学校後期入学者選抜

３年生にとっては最後の１週間となります。月曜日から卒業式の練習が始まり、木曜日には中学校生活最後のセレモニー・卒業式です。そして、公立高等学校後期入学者選抜を受検する生徒は月曜日または火曜日に出願し、16 日（月）に進路決定に向けた最後の試験にチャレンジします。

月曜日の全校集会では、次のようなメッセージを送りました。

人が最も幸せを感じるのは、人から「ありがとう」と感謝を言われたときだそうです。「ありがとう」という言葉は、相手の気持ちを幸せにするだけではなく、不思議と「ありがとう」という言葉を言った人にお礼が帰ってくる言葉です。

人間は自分のイメージを現実化させる力が秘められているそうです。自分の口から出た言葉通りの人生を作るともいわれています。自分が使っている言葉をチェックしてみてください。マイナス思考の言葉ばかり使っていませんか。

言葉の中に「五悪」といわれる５つの悪い言葉があります。「不平不満を言う言葉」「愚痴を言う言葉」「泣き言を言う言葉」「悪口を言う言葉」「文句を言う言葉」です。
このような言葉をいつも発している人は、いつもこのような言葉を言わなければならないことが身の回りに起こっているということです。そして、文句を言えば言うほど、さらに文句を言わなければならないことが身の回りに起こるものです。

しかし、「ありがとう」と常に言っている人には、不思議なことに「ありがとう」と感謝するようなことばかりが引き寄せられてくるといいます。

「横堤中学校生徒１０カ条」の１０番目「『ありがとう』感謝の気持ちを忘れない」をすべての人が実践し、感謝の気持ちがあふれた素晴らしい卒業式にしましょう。

今年の３年生は、「横堤中学校生徒１０カ条」の振り返りアンケートの結果でもわかるように、最上級生としての自覚を持ち、様々な学校行事に、日々の学習に、仲間づくりに、そして部活動や個々の活動に素晴らしい成果を上げてくれました。

裏面“儀式の意義”を踏まえ、正しい身だしなみ、厳粛で静かな雰囲気のもと、みんなに祝福され、大きく世界に羽ばたいてくれることを期待しています。また、３年生だけではなく、全校生徒で創る卒業式です。１・２年生も、自分の与えられた役割を責任持って果たし、また一つ成長して、進級してくれることを期待しています。

これまでの先輩方を超える最高の卒業式となるよう、全員が心をひとつにし、みんなの心に残る素晴らしい第３３回卒業式を創りあげましょう。

## 来週の予定

| | | | |
|---|---|---|---|
| ９日(月) | ３年 | 式場準備・式練習（３限まで）・公立後期選抜出願 | |
| | １・２年 | 授業 | |
| １０日(火) | ３年 | 式練習（３限まで）・公立後期選抜出願 | |
| | １・２年 | 授業 | |
| １１日(水) | ３年 | 式練習・予行（３限まで）・公立後期選抜事前指導 | |
| | １・２年 | 授業・式予行（代表生徒）・昼食後式場準備・大清掃 | |
| １２日（木） | ３年 | 第３３回卒業式 | ９：３０集合 |
| | １・２年 | | ９：４０集合（一部９：１０集合） |

儀式（セレモニー）とは、「一定の形式、ルールに基づいて行われ、日常生活とは異なる特別な行為」「所属する特定の社会において、集団の結束を確認するためや、集団でのステップアップのために行われ、社会に周知させるためにも行われる」とあります。

卒業式は、中学校という一つの社会の中で、３年間一緒に取り組んできた仲間や先生、保護者や地域の方々と、これまでの取組と結束を改めて振り返り、新たな進路へのステップアップを共に祝う会だといえます。そこには、３年間の頑張りを評価するとともに、今後、責任ある役割を果たす存在へと脱皮していってくれることへの大きな期待も含まれています。

## 新たな一歩に向けて!!

３年生は、いよいよ新たな世界への第一歩です。９年間、横堤の仲間と共に歩んできましたが、４月からは、それぞれの進路に分かれていきます。皆さんの人生の途中には、厳しい試練や、耐え切れない心の傷を味わうことがあるかもしれません。熱意や努力だけでは、どうにもならないことに出くわすこともあるかもしれません。

でも、そこで立ち止まっているわけにはいきません。

何事も、はじめからうまくいくわけはなく、失敗を恐れていては、ますます何もできなくなります。未来は、３つの名前を持っているといわれています。弱い者にとっては「不可能」、臆病な者にとっては「未知」、勇気ある者にとっては「理想」という名前です。理想を追いかける人生を歩んでください。その人生がどんなに厳しくても、大きく人生が開かれるときが必ず来ます。自分にしか歩めない人生を大切に進んでください。

卒業する３年生の皆さんに、そして、それぞれ１ステージ、ステップアップする１・２年生の皆さんに、松下電器産業（現パナソニック）を一代で築き上げた松下幸之助さんの著書「道をひらく」の中から「道」という詩を紹介します。

### 「道」

自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。
どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。
自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがいのないこの道。
広い時もある。せまい時もある。
のぼりもあればくだりもある。
坦々とした時もあれば、かきわけかきわけ汗する時もある。
この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もあろう。
なぐさめを求めたくなる時もあろう。
しかし、所詮はこの道しかないのではないか。
あきらめろと言うのではない。
いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、
ともかくもこの道を休まず歩むことである。
自分だけしか歩めない大事な道ではないか。
自分だけに与えられているかけがいのないこの道ではないか。
他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、
道はすこしもひらけない。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。
心を定め、懸命に歩まねばならぬ。
それがたとえ遠い道のように思えても、
休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。
深い喜びも生まれてくる。

松下幸之助「道をひらく」より